

令和4年度行政事業レビューシート ( 文部科学省 )

<b>事業名</b>	原子力平和利用調査等事業拠出金			<b>担当部局庁</b>	研究開発局	<b>作成責任者</b>				
<b>事業開始年度</b>	昭和61年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	研究開発戦略官(核融合・原子力国際協力担当)付	研究開発戦略官(核融合・原子力国際協力担当) 稲田剛毅				
<b>会計区分</b>	エネルギー対策特別会計電源開発促進勘定									
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	特別会計に関する法律施行令第51条6項13号			<b>関係する計画、通知等</b>	第5次エネルギー基本計画(平成30年7月閣議決定)					
<b>主要政策・施策</b>	科学技術・イノベーション			<b>主要経費</b>	エネルギー対策					
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構原子力機関(OECD/NEA)に対する特別拠出金の拠出を通じて、我が国の原子力利用が核不拡散の点から平和的に進められていることについて国際的な理解・協力を得るとともに技術・制度等に関する情報を入手することで、我が国の原子力施設等の利用の促進等に資することに加え、国際的な核セキュリティ強化や核拡散抵抗性の向上などの国際貢献にも資する。									
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	IAEA及びOECD/NEAにおいて実施される、 ○核不拡散・原子力平和利用に関する調査・検討 ○原子力システムにおける放射性廃棄物に関する技術の調査・検討 ○核拡散抵抗性に優れた原子力技術開発の調査・検討 の取組について特別拠出金を拠出し、我が国の原子力平和利用の推進に資する。									
<b>実施方法</b>	直接実施									
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	85	80	79	83	83			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
	計		85	80	79	83	83			
	執行額		85	80	79	-				
執行率(%)		100%	100%	100%	-					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		100%	100%	100%	-					
<b>令和4・5年度 予算内訳(単位:百万円)</b>	歳出予算目		令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由					
	原子力平和利用調査等事業拠出金		83	83						
	計		83	83						
<b>活動内容(アクティビティ)</b>	国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構原子力機関(OECD/NEA)に対する特別拠出金の拠出を通じて、我が国の原子力利用が核不拡散の点から平和的に進められていることについて国際的な理解・協力を得るとともに技術・制度等に関する情報を入手することで、我が国の原子力施設等の利用の促進等に資することに加え、国際的な核セキュリティ強化や核拡散抵抗性の向上などの国際貢献にも資する。 「第4世代原子力システムに関する国際フォーラム」(GIF)においては、本拠出金により、革新的原子力システム技術開発分野の会合実施を支援する。									
<b>活動目標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込	
	GIFへの参加・協力	IAEA及び第4世代原子力システムに関する国際フォーラム(GIF)に対する拠出金額	活動実績	百万円	85	80	79			
			当初見込み	百万円	85	80	79	83		
<b>単位当たりコスト</b>	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	拠出金額/ワークショップ・国際会合開催数			単位当たりコスト	千円	4,051	5,705	3,274	5,937	
				計算式	千円/件	85,065/21	79,871/14	78,571/24	83,117/14	

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
								4年度	-年度
IAEA等における核不拡散、核拡散抵抗性に優れた原子力技術開発等に関する活動結果を原子力政策の立案や原子力施設等の利用の促進等に活用することに加え、国際的な核セキュリティ強化などの国際貢献に資するため、前年度数以上のワークショップ・国際会合を開催する。		ワークショップ・国際会合開催数(中間目標欄、目標最終年度欄には、令和3年度事業の目標値を記載している。)	成果実績	開催数	21	14	24	-	-
			目標値	開催数	14	21	14	14	14
			達成度	%	150	67	171	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	IAEA CFE職員報告資料、第4世代原子力システムに関する国際フォーラム(GIF)会議議事録								
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
								4年度	-年度
OECD/NEAの意思決定における我が国のプレゼンスの向上		OECD/NEAの職員数(専門職以上)に占める日本人職員数	成果実績	人	7	4	5	-	-
			目標値	人	9	8	5	6	-
			達成度	%	77	50	100	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	外務省算出								
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
								4年度	-年度
OECD/NEAの意思決定における我が国のプレゼンスの向上		OECD/NEAの幹部職員数(D1以上)に占める日本人幹部職員数	成果実績	人	2	2	1	-	-
			目標値	人	3	3	3	2	-
			達成度	%	66	66	33	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	外務省算出								
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
								4年度	-年度
IAEAの意思決定における我が国のプレゼンスの向上		IAEAの職員数(専門職以上)に占める日本人職員数(IAEAの規定には「望ましい日本人職員数」の規定は存在せず、またIAEAは非常に専門的な知見を必要とする国際機関であるところ、前年成果実績+1増を翌年の目標値とする。)	成果実績	人	39	39	41	-	-
			目標値	人	39	40	40	42	-
			達成度	%	100	98	103	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	外務省算出								



事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、国際機関を通じて核不拡散の基盤整備等に係る調査・検討を行い、その成果を活用することで我が国の原子力施設等の利用の促進等に資するものであり、公益性の高い事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、上記のとおり、国際機関を通じて得られた成果を活用することで、我が国の原子力施設等の利用の促進等に資するものであり、事業に要する経費は国が拠出すべきである。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、上記のとおり、国際機関を通じて得られた成果を活用することで、我が国の原子力施設等の利用の促進等に資するものであり、政策目的の達成手段として必要かつ適切であるとともに、政策体系の中で優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	IAEA及びOECD/NEAは、各国の原子力平和利用を促進している国際機関であり、拠出先としては妥当である。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	IAEA及びOECD/NEAに対する拠出金であり、受益者との負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	IAEA及びOECD/NEAに対して、我が国からの拠出金の執行状況等を精査し、単位当たりのコストの水準について妥当なものであることを確認している。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	IAEA及びOECD/NEAに対して、我が国からの拠出金の執行状況等を精査し、使途が事業目的に即し、真に必要なものに限定されていることを確認している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	各国の知見が集まるIAEA及びOECD/NEAを通じて事業を実施することで、効率的な調査等を実施している。また、事業成果を着実に得られるよう、IAEA及びOECD/NEAの日本人職員等と密な連絡を取る等、事業推進のための情報収集等に努めている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	国際機関を通じて核不拡散の基盤整備等に係るワークショップ等を開催しており、目標に見合った成果実績となっている。また、OECD/NEAでは幹部の一人を邦人が務めており、当該国際機関における我が国の存在感の向上に大きく役立っている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	本事業は、核不拡散の基盤整備等に関する調査・検討について、原子力の平和利用を促進している国際機関であるIAEA及びOECD/NEAにて実施するものであり、費用対効果の高い事業となっている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	IAEA及びOECD/NEAに対して、我が国からの拠出金の執行状況等を精査し、使途が事業目的に即し、真に必要なものに限定されていることを確認しており、活動実績は見込みにあったものとなっている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	核不拡散の基盤整備等に関するワークショップ等が開催され、得られた成果は、我が国の原子力施設等の利用の促進等に資するために、着実に活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号	事業名	

点検・改善結果	点検結果	本事業により、IAEA等の国際機関において、核不拡散の基盤整備等に関する調査・検討が実施され、日本においても核セキュリティに係るワークショップ等の人材育成事業が実施されるなど、我が国の原子力施設等の平和利用が進むことに貢献していることに加え、国際的な核セキュリティ強化などの国際貢献にもつながっている。
	改善の方向性	引き続き、他国の拠出状況も踏まえつつ必要な拠出を行うとともに、事業の目的に即して着実に実施する。

**外部有識者の所見**

外部有識者による点検対象外

**行政事業レビュー推進チームの所見**

抜本的な改善の事業全体	この事業は、成果目標において実績が目標値を達成できている案件があるが、一部は目標値を下回っていることから、その案件については目標値を検証すべきである。
-------------	---

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

年度内を検討改善	ワークショップ・国際会合開催数については、令和3年度はオンライン等を活用しつつ目標値を達成。OECD/NEAの邦人職員数についても同様に、昨年度より1名増となり目標値を達成。幹部職員数については1名減となつてはいるものの、この1名はNEA事務局長を補助する事務局次長を務めており、NEA全体の活動を管理・監督する重要責務を担っていることから、我が国のプレゼンス向上という観点では目標に見合うものと判断できる。 引き続きNEA及びIAEAの状況等を踏まえ、それぞれ明らかな漸減が続く場合は、より適切な目標値の設定方法について検討したい。
----------	--

**備考**

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成23年度	0534			
平成24年度	0480			
平成25年度	0289			
平成26年度	0287			
平成27年度	0276			
平成28年度	0273			
平成29年度	0280			
平成30年度	0285			
令和元年度	文部科学省 - 0279			
令和2年度	文部科学省 0281			
令和3年度				

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

**【原子力平和利用調査等事業拠出金】**



